

令和5年度

臼杵市学校教育指導方針



臼杵市教育委員会

令和5年度 臼杵市学校教育指導方針 目次

○臼杵市学校教育指導方針 全体像	… 1
○令和5年度 基本方針	… 2
1. 臼杵市の教育方針	
臼杵の未来をたくましく拓き、 超スマート社会をしなやかに生き抜く、臼杵っこの育成	
【臼杵市学校教育指導方針の重点施策】	… 4
2. 令和5年度の重点施策の取組について	… 6～11
(1) 学校組織力向上の推進「『チーム学校』の徹底」	… 6
(2) 学力向上の推進「学習指導要領に対応する教育体制の確立」	… 7
(3) 体力向上の推進「運動の習慣化・日常化と健康課題への対応」	… 8
(4) 臼杵っこ輝きプロジェクトの充実	… 9
(5) 協育ネットワークを活かした地域とともに作るコミュニティ・スクールの推進	… 9
(6) 感動体験を大切にする特別活動	… 10
(7) 心の結びつきを深める生徒指導	… 11
(8) 望ましい勤労観・職業観を育てるキャリア教育	… 11
(9) 人権尊重の精神を貫く人権・部落差別解消推進教育	… 11
(10) 幼稚園、小・中学校の適正規模、適正配置	… 11
○具体的な行動計画	… 12～23
1. 学校組織力向上	… 13
2. 学力向上	… 15
3. 体力向上・健康増進	… 18
4. 臼杵っこ輝きプロジェクト	… 20
5. 臼杵らしさを活かしたまなびプロジェクト	… 22

令和5年度 全体像

I. 臼杵市の教育方針

臼杵の未来をたくましく拓き、
超スマート社会をしなやかに生き抜く、臼杵っこの育成

現在、グローバル化や情報化の急速な進展など、変化の激しい時代を生きる子どもたちに対して、自ら世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働していくための基盤となる力を総合的に育成することが求められている。

臼杵市でも過疎化や少子化が進み、地域の教育力の低下が心配される中、生活や教育の拠点を都市部に求めていこうとする傾向が見られ、グローバル化や情報化に対応できる力の育成と郷土の文化や歴史を守り育てていく人材の確保や郷土への愛着心の低下等の問題が顕著になっている。学力重視の傾向は、子どもを取り巻く環境を大きく変化させ、人間関係の希薄化や体力低下などを招いており、これまでも増して「郷土（ふるさと）を愛する心」を育成する『郷育』、学校・家庭・地域が協力して育成する『協育』、そして「他者との関係性を大切にしながら響き合い、感謝の心」を育成する『響育』の「3つのきょう育」を土台とするとともに、それぞれが、子どもたちの未来のために今日すべきことは今日行う「機を逃さない今日育」を意識することで、21世紀を生き抜く力を身につけた“臼杵っこ”育ての教育を推進する。また、「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されたことに伴い、すべての児童生徒が等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重される相談体制を築き、差別を解消するために必要な教育の充実を図る。

新学習指導要領では、「教員が何を教えるか」ではなく、学習者（＝子ども）を主語にした主体的・対話的で深い学びが実現できているかという授業改善の視点や、指導の目的を「何を知っているか」とどまらず「何ができるようになるか」にまで発展させる授業展開への意識が浸透しつつある。まず学習する子どもの視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という視点から、育成を目指す資質・能力を整理した上で、その資質・能力を育成するために「何を学ぶか」、それに必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか」という、子どもたちの具体的な学びの姿を構成していくための、学校マネジメント、カリキュラムマネジメントの深化に向けての取組を継続する必要がある。

また、令和3年1月26日に中央教育審議会答申において「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が示された。本答申では、『令和の日本型学校教育』の姿として、全ての子どもたちの可能性を引き出す、『個別最適な学び』と、『協働的な学び』の実現が重要であると示されている。本市においても『個別最適な学び』と、『協働的な学び』を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげ、教育目標の達成をめざすための具体的な取組を推進する。『個別最適な学び』については、指導方法や指導体制の工夫改善やICTの活用により、「個に応じた指導」の充実を図る。『協働的な学び』については、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、議論できる場の設定を大切にする。このような学習活動を通して、正解のない課題に対応し、よりよく生きていくために必要な対話力（聴く・考える・話す）を育成することが重要である。

国・県の動向を踏まえ、臼杵市においても「学校・家庭・地域・行政が一体となってすすめる『3つのきょう育』」を土台として「幼小中一体教育」の深化・確立をめざす具体的な方策を定める。

本方針及び方策を踏まえ、それぞれの小中学校では、地域の特徴を生かした学校教育目標を定めて学校経営及び運営に努め、働き方改革を推進しながら「チーム臼杵」として「学ぶ力」「誠実さ」「たくましさ」を身につけた臼杵大好き“臼杵っこ”の育成に取り組む。

- ① 「学ぶ力」・・・興味・関心を持ち、自分自身で考え、問題を解決していく力
- ② 「誠実さ」・・・自分の生き方を見つめ、他者との望ましい人間関係を築いていく力
- ③ 「たくましさ」・・・心身ともに生き生きと向上心をもって困難に立ち向かう力

【臼杵市学校教育指導方針の重点施策】

幼小中一体教育を基盤にした、学校・家庭・地域・行政をつなぐ 横断的きょう育(3つのきょう育+今日育)ネットワークの構築

臼杵市学校教育指導方針の具現化に向け、小学校と中学校がそれぞれの課題を共有し、目標値を明確にした上で、改善への手だてを協働で取り組んでいく必要がある。

中学校ブロックを基本単位とし、小学校と中学校が義務教育終了までにめざす児童生徒の具体像を共有し、9年間を見通した「小中一体教育」を系統的・継続的に推進する。推進にあたってはブロックごとに推進協議会を設置し、ブロックの特性を活かすことで魅力ある教育活動を展開する。

小・小のつながりを強化し、単に行事を共に実施するだけでなく、地域の特徴を学び交流し、郷土愛の育成を視野に入れながら、自主的・対話的な体験型学習による深い学びの実現や小・中連携の強化につなげる。

小中一体教育の一層の推進を図るため、その基礎となる幼稚園・保育園(所)・認定こども園と小学校とのつながりを積極的に進め、充実を図る。具体的には、保・幼・小の情報交換会や交流学习を行うとともに、幼児教育推進委員会や幼小接続連携協議会の活性化により幼保と小学校を滑らかにつなぐ。

ちあばーと(子ども子育て課)、保険健康課との連絡会や“うすきっ子5歳児健診すこやか相談会”などを通じた連携を進め、内容の充実を図る。

また、諸機関の連携を推進し、地域の将来を支える人材の育成を担う高等学校へとつなげる育成体制の構築を図るものとする。さらに、学校運営協議会を活用し、学校と家庭・地域が目標の共有・達成を協働するコミュニティ・スクールを活かした活動をすすめていく。

特別支援教育の重要性の視点からのつながりを強化するため、いじめ対策や不登校支援の充実、子どもの頃からの健康づくりにおいても、幼小中一体教育の深化と確立により、一人ひとりを大切にした教育の実現を図るものとする。

学校・家庭・地域・行政が一体となって、「15の春の自立」を目指した系統的な臼杵市の教育を進める上で、その土台となる「3つのきょう育」に加え、それぞれが「今日育」(子どもたちの未来のために今日すべきことは今日行う「機を逃さない教育」)を意識し、臼杵の未来を担う臼杵っこの育成に向けた取組を実施していく。

信頼される芯の通った学校組織の確立

- (1) 学校教育目標に沿った社会に開かれた教育課程の編成と適正な学校評価による学校マネジメントの深化
- (2) 校長のリーダーシップとミドルリーダーの活躍・全教職員が参画意識を持って学校運営を行う「チーム学校」の確立
- (3) 教職員の人材育成と働き方改革により、教職員が意欲を持って教育活動に取り組み、教育力を高める。
- (4) 児童生徒による授業評価を生かす学校運営及び授業改善

地域とともにつくる学校

- (1) 学校・家庭・地域・行政が一体となってすすめる幼小中一体教育の『深化と確立』
- (2) 地域との連携・協働による、特色を活かしたコミュニティ・スクール(学校運営協議会)の質的向上と学校教育目標の共有・達成
- (3) 学校の枠を越えた連携による、発展的な教育活動の実践
- (4) 児童生徒・保護者・地域に対する情報発信及び受信
- (5) 人権を尊重し、信頼しあえる人間関係づくり

一人ひとりを大切にした教育の実現

- (1) 「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成と活用を通じた授業改善
- (2) GIGA スクール構想による ICT 機器を活用した ICT・プログラミング教育の充実
- (3) 豊かな感性を育む読書活動の推進
- (4) 教科担任制や英語専科教員の活用及び教育の質の向上
- (5) 「わかった」「できた」そして「楽しい」を実感する授業改善に向けた生徒による授業評価
- (6) 児童生徒の実態に応じた食育・健康教育及び計画的な防災教育・防犯教育・情報教育の実施

2. 令和5年度の重点施策の取組について

(1) 学校組織力向上の推進「『チーム学校』の徹底」

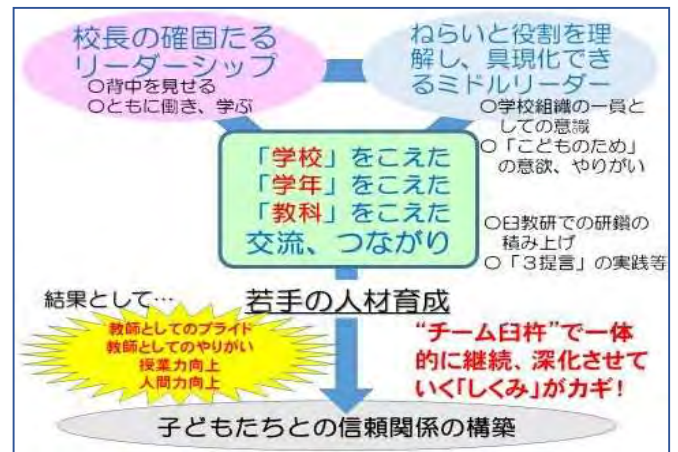
① 「3学期は次年度の0学期」の確立（段差のない円滑な検証・改善サイクル）

取組の円滑なスタートに向け、人事異動等に伴う引継の徹底、短期の検証・改善と、年度を跨いだ検証・改善サイクルの確立を図る。新年度の「学校評価の4点セット」等の策定に当たっては、前年度末の検証結果を十分に踏まえた喫緊の課題（残された課題・新たな課題）に対応する。

② 学校教育目標の見直し及び整合性の確保

臼杵市学校教育指導方針や学習指導要領を踏まえて、年度末に学校教育目標や学校経営方針の見直しを行い、新年度の「学校評価の4点セット」との整合性を図る。学校教育目標、重点目標ともに学校の実態に即して具体化・焦点化されたものとすると共に、すべての教職員への共通理解を図る。

学校教育目標・学級目標・児童生徒の目標やめあてを連動させる校内のプロジェクトチームの機能強化を図る。現状・課題を踏まえた上で「芯の通った学校組織」推進プラン 第3ステージの学校マネジメント4つの観点と評価基準をもとに「学校評価の4点セット」の見直しを行う。



③ 子どもたちとの信頼関係構築に向けた教職員のつながり強化

大量退職・大量採用時代となり、管理職・ミドルリーダー・若手教職員の資質向上や学校経営力、学級経営力の向上が必要である。スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、地域児童生徒支援コーディネーター、授業力向上アドバイザー等を有効活用し、児童生徒・保護者・地域に信頼される学校組織を確立し、組織力向上・人材育成等に努める。

④ 「地域とともにある学校」の促進・充実

学習指導要領がめざす「社会に開かれた教育課程」の実現に資するため、学校・家庭・地域が学校の重点目標を共有した上で、「学校評価の4点セット」等の作成過程や取組の実践においてもそれぞれの主体的な関わりが求められる。「協育」ネットワークによる学校支援活動については、学校の重点目標達成に寄与するものであることを理解し、教職員全員で意識を深め、社会教育課内に配置されている協育コーディネーターを活用する。コミュニティ・スクール（CS）活動にあっては、小中一体教育のブロックごとに配置した、協育コーディネーターと地域振興協議会とが両輪として機能するための環境整備として、よき理解や協力を得るための情報発信等にも努める。

⑤ マネジメント・教育課程レベルでの校種間連携の推進

「学校評価の4点セット」をはじめとする各種マネジメントツールについては、小中一体教育のブロック内での共有のみならず、主任等を中心に、全教職員が関わり、その作成過程で重点的取組や指標のすり合わせを行うことにより、マネジメント・教育課程レベルでの実質的な連携を図る。

⑥ 働き方改革に向けての改善

学校評価の重点的な評価項目の1つとして「学校現場の負担軽減ハンドブック」を活用しながら業務改善や教職員の働き方に関する項目を明確に位置づけ、学校評価のプロセスを積極的に活用する。

(2) 学力向上の推進「学習指導要領に対応する教育体制の確立」

①信頼される質の高い教師への変革

前例踏襲主義を排し、教育の不易な面を大切にしながら、日々変化する子どもたちの実態に応じた実践を行う。校内研修だけでなく、経験年数に応じて自分自身の立場や教育課題に沿った校外研修にも積極的に参加したり、自主研修を充実させたりすることで、教師としての自らの意識改革を図り、教育実践力を高め、教育に対する「情熱」と「人間性」に溢れた教師をめざす。

- 1) 教育への熱意と先見性をもち、児童生徒に信頼される教師
- 2) 高い指導力と学級経営力により、児童生徒の可能性を引き出し・気づき・伸ばす教師
- 3) 児童生徒と共に学び共に成長する人間力豊かな教師
- 4) 保護者や地域とつながり信頼関係を築く教師
- 5) 教育者としての自覚と使命感をもち、責任ある行動のできる教師

②「つきたい力を意識した主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- ・「臼杵市Thank youチェックシート」の効果的な活用と、校内及び小中一体教育のブロック内での互見授業の日常化を推進する。全ての教職員が「授業で子どもに力をつける」という意識を共有しあい、「新大分スタンダード」に基づく授業の質の向上を図る。
- ・児童生徒の主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業改善の推進

③児童生徒に「生き抜く力」を身につけるための基礎学力の確実な定着及び学力向上

- ・「中学校学力向上対策3つの提言」推進校のさらなる充実
- ・「中学校学力向上対策3つの提言」推進校の成果を市内全中学校へ拡大する取組
- ・学校規模に応じた小学校における教科担任制の導入
- ・体験的活動を重視した授業実践の推進
- ・授業力向上アドバイザー等の活用
- ・幼稚園・保育園（所）・認定こども園の自主的・主体的な遊びを通した「しらしんけん遊ぶ『臼杵っこ育ての羅針盤』」の推進と小学校との滑らかな接続の推進

④具体的な評価規準の設定と個に応じた指導支援の徹底

- ・単元及び1時間毎に児童生徒に到達してほしい姿を具体的な評価規準として設定し、到達していない場合は、個々の習熟の程度に応じたきめ細かな指導を行う。
- ・ねらいの明確化と、「めあて・振り返り」、「課題・まとめ」を位置づけた授業展開・板書の構造化の徹底
- ・生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

⑤小学校・中学校の英語教育の推進

- ・臼杵市EnglishProjectチームを核とした外国語教育における小中一体教育
- ・小学校からの学びをつなぐ体制づくり（小小・小中の連携）
- ・小中の繋がりを意識した単元プランの活用と臼教研（英語部会・外国語部会）の連携

⑥コロナ禍においても学びを止めない取組

- ・授業と家庭学習を効果的に連動させた学習指導の推進
- ・新しい生活様式を踏まえた主体的・対話的で深い学びのある授業の推進
- ・一人一台端末を有効活用した授業と家庭学習の充実（オンライン授業やデジタルドリル等）
- ・カリキュラム・マネジメントによる教育活動の工夫

⑦ICTを有効活用した児童生徒の情報活用能力の育成と学校教育の充実

- ・GIGAスクール構想の実現に向けた環境整備（モデル校に電子黒板を配置）
- ・一人一台端末の有効活用による学習活動の充実
（調べ学習、表現・制作、遠隔教育、情報モラル教育、デジタルドリルの導入）
- ・授業での効果的な活用に向けた教職員のICT活用研修の充実

(3) 体力向上の推進 『運動の習慣化・日常化と健康課題への対応』

①運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進

- ・運動の楽しさを味わわせる授業づくりと運動の習慣化・日常化に向けた短期の検証・改善サイクルを確立する。
- ・肥満対策が必要とされる中、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向の状況を踏まえ、引き続き「一校一実践」の取組を工夫する。運動の習慣化・日常化に向けた組織的な取組を学校全体で行う。
- ・市保健師や栄養教諭を活用し、保護者の理解・協力を得る取組を推進する。

②健康課題への対応

- ・学校健診結果を経年的に管理分析し、個及び集団の健康課題を明らかにする。
- ・朝食摂取率の向上や、情報端末機器（携帯電話・スマートフォン等）との接触時間の自己管理による適切な就寝時間の設定など、養護教諭・栄養教諭が中心となり、児童生徒の基本的な生活習慣の改善やバランスのとれた身体づくりに取り組む。
- ・市をあげて取り組む「小児生活習慣病対策プロジェクト」の主旨を理解し、各学校での生活習慣病対策等子どもの頃からの健康づくりを強化する。そのため、学校健診の分析結果を情報発信し、関係機関と共有し必要な対策を行う。また、「肥満傾向児」及び「やせ児」に対する二次健診を実施し、児童生徒及び保護者に対する保健指導を実施する。
- ・がん教育についても学習指導要領に基づき、積極的に取り組む。

③歯と口の健康づくり

- ・むし歯予防対策については引き続き、小中ともに歯みがき指導・食に関する指導、フッ化物洗口の活用の3つの取組を推進・強化する。
- ・学校におけるフッ化物洗口を、各校で編成する教育課程の学校保健計画に位置づけ、学校における保健管理の一環として実施する。フッ化物洗口実施率向上に向けて、各学校における取組を強化し、児童生徒の健康づくりを積極的に推進する。

④心身の健やかな成長のための合理的で効率的・効果的な部活動の推進

- ・国や県の方針及び「白杵市における運動部活動の在り方に関する方針」「白杵市における中学校部活動ガイドライン」に則り、学校教育がめざす資質・能力及び豊かな感性等の育成を図り、バランスのとれた心身の成長を促す。
- ・生徒が部活動を楽しむことで運動習慣の確立等を図り、生涯にわたって心身の健康を保持し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図る。
- ・スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感・連帯感の涵養を図る。
- ・生徒の自主的・自発的な態度を育成し、学校教育の一環として教育課程との関連を図り、合理的でかつ効率的・効果的に取り組む。
- ・教職員の働き方改革及び生徒の健康管理を推進するため、部活動ガイドラインを遵守する。

(4) 臼杵っこ輝きプロジェクトの充実

①幼小接続連携の推進

- ・小学校においては、幼児教育が行う「遊び」を中心とした学びの芽生えを十分に理解し、「遊び」の重要性について幼稚園・認定こども園・保育園（所）・小学校と共有する。幼児教育と小学校教育との引き継ぎをスムーズに行い、幼児一人ひとりに必要な指導支援の情報共有に努め、子どもの育ちをつなげる。
- ・幼児教育と小学校教育に関わる者同士の意見交換や合同研修等により、保育士と教師、園児と児童がつながり連携を深めていく。
- ・幼児教育アドバイザーや幼小連携推進コーディネーターを積極的に活用し、幼児教育と家庭教育の連携を図りながら推進する。

②特別支援教育の充実

- ・各校の特別支援教育コーディネーターが、保護者や関係機関に対する学校の窓口として、また学校内の関係者や福祉、医療等の関係機関との連絡調整としての役割を担うことで、計画的・組織的に特別支援教育のさらなる充実を図る。
- ・「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」の作成・活用・見直し
 - i) 全ての特別支援学級及び通級教室に在籍する児童生徒の個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する。（計画書及び報告書を市教育委員会へ提出）
 - ii) 通常の学級に在籍しており何らかの支援が必要と考えられる児童生徒の個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する。（計画書及び報告書を市教育委員会へ提出）
- ⇒ i)、ii)については、臼杵市教育委員会が派遣する特別支援教育調査・相談員等を活用し、教職員のサポートを行うとともに子どもの困りの解消及び保護者の不安軽減に努める。
- ・就学支援委員会及び調査部会を定期的に開催し、子どもの困りの共通理解及び対応について協議する。
- ・5歳児すこやか相談会や年長児交流事業、幼小接続連携協議会等を通じて、子どもの状況を引き継ぎ、切れ目のない指導支援を実施する。

③組織的ないじめ対策・不登校支援の徹底

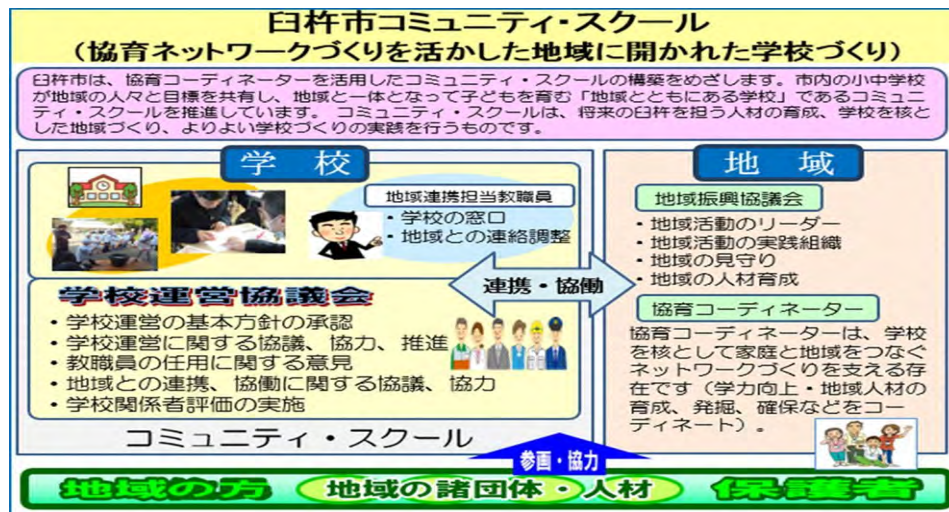
- ・スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）等の専門スタッフとの連絡調整窓口となる教育相談コーディネーターを分掌に位置付け、専門スタッフの参加を得た校内委員会等の定期的な開催を徹底する。
- ・従来の不登校支援に加えて、いじめなど児童生徒の抱える問題の組織的解決に向けた調整役として「地域児童生徒支援コーディネーター」を効果的に活用する。
- ・スクールロイヤーの活用及び臼杵市いじめ防止推進委員会との連携を強化する。
- ・関係機関との連携を図り、チーム学校の体制を構築し、組織的対応を行うように努める。
- ・人間関係づくりプログラム等を活用したいじめの未然防止、絆と居場所づくり（学級づくり等）に努める。

(5) 協育ネットワークを活かした地域とともに作るコミュニティ・スクールの推進

「地域の子どもは地域で育てる」という理念のもと、協育コーディネーターを活用し、地域と一体となって子どもを育む「地域とともにある学校」としてのコミュニティ・スクール（CS）

の取組を推進する。CSは、市内の小中学校が家庭や地域の人々と地域課題や学校方針・経営目標を共有しながら、将来の白杵を担う人材の育成や学校を核とした地域づくり・よりよい学校づくりの実践を行うものであり、児童生徒を地域との連携・協働により育てる意識を共有する。

- ①CSは、学校課題の解決や小中一体教育の推進、うすきふれあい学校等においても学校・家庭・地域の絆を深めることをめざし、地域振興協議会等と連携を図る。
- ②CSは、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を進め、「協育ネットワーク」の確立に向け、学校とともに社会教育課所属の協育コーディネーターが調整役となり、地域の教育力の活用、家庭と地域の連携を図り、役割分担の明確化・適正化による特徴ある取組を推進する。
- ③地域人材を活用して、放課後子ども教室・中3生教室等の事業の充実・幼児教育の重要性の周知についても、家庭教育の充実とあわせて取り組む。



(6) 感動体験を大切に作る特別活動

- ①自己存在感を高め、自己を生かす能力を養う場として、「異年齢・異世代との交流を図る活動」・「地域社会に愛着を持てる活動」・「他校種との交流を図る活動」・「農村宿泊体験学習」等を積極的にすすめるとともに、自然体験活動や社会体験活動など豊かな体験活動の充実に努める。
- ②身の回りの問題を自分の問題としてとらえ、集団の中で解決していくことができるよう問題解決の過程に沿った活動を推進し、指導方法の工夫に努める。

- ③活動の展開においては、児童生徒一人ひとりに自己決定の機会を与え、存在感や充実感、成就感を味わわせるように配慮する。
- ④優れた芸術や郷土の伝統文化にふれたり、地域の伝統・文化・芸術活動へ参加したりすることで、各校の実態に沿って、郷土愛の育成に積極的に取り組む。

(7) 心の結びつきを深める生徒指導

- ①園児、児童生徒、教師が、人間尊重の精神を基盤とした心の結びつきによる好ましい人間関係をつくるとともに、一人ひとりの特性が生かされる指導に努める。
- ②一人ひとりに応じた適切な指導や援助ができるよう、園児、児童・生徒に対する確かな理解に基づき、全教職員が連携した指導体制の確立に努める。
- ③QUテストを活用して、児童生徒の内面を理解し、適切に対応する。また、児童生徒一人ひとりが輝ける学校(学級)運営の実現に向けて活用を推進する。

(8) 望ましい勤労観・職業観を育てるキャリア教育

- ①家庭と本人、教師及び教師間の共通理解や指導に実際に役立つよう進路指導の目標や重点及び内容を明確にした指導計画の作成に努める。
- ②児童生徒が自らの生き方について考えを深めることができるよう、系統的・体系的なカリキュラムを作成し、地域における先人の生き方を学ばせ、職場見学や体験活動の充実を図る。
- ③中学校において職場体験を実施し、各校の実態に沿って事業所や家庭・地域との連携や協力のもとで、働くことの意義や生きることの尊さを実感できるようにする。
- ④小中高の連携や各々の成長のふり返りにキャリア・ノートを活用する。

(9) 人権尊重の精神を貫く人権・部落差別解消推進のための教育

- ①一人ひとりの学習の状況や生活の実態を踏まえた人権・部落差別解消推進にかかわる課題を的確に把握し、その課題解決が図られるよう校内の人権・部落差別解消推進体制を充実させるとともに、発達段階や状況に応じた適切な指導に努める。
- ②「部落差別の解消の推進に関する法律」の趣旨を理解し、学習指導要領に沿って、教育内容の充実や相談体制の確立を徹底する。人権・部落差別解消推進教育が全教育活動で行われ、部落差別問題をはじめとしたあらゆる差別の解消が図られるよう、各教科活動の目標や内容を人権・部落差別解消推進教育のねらいから見直し、実践する。
「おおいたの部落問題学習」(大分県教委)及び臼杵市独自教材の「更にすすめよう部落解放学習実践指導案集2012」を活用し、全ブロックで、小・中・高の連携した系統性のあるカリキュラムにより、部落問題学習を教育課程へ適切に位置づける。
- ③各園・学校と地域社会との連携を深めるとともに、保護者に対する適切な学習資料の活用や体験的参加型学習を通して、より効果的な教育及び啓発に努める。
- ④毎年、全教職員の意識調査や新たに臼杵市で勤務する教職員に対し、フィールドワークを実施し、知識・理解を深める。
- ⑤登録型本人通知制度の加入促進を図る。

(10) 各園、小・中学校の適正規模、適正配置

教育総務課が作成した「学校施設の長寿命化計画」を踏まえた「小中学校の適正規模・配置計画」の見直しや公立幼稚園の今後のあり方を含め、関係機関と協力しながら、今後の方向性について協議する。

具体的な取組

Ⅰ. 学校組織力向上

(Ⅰ) 学校マネジメントの深化の取組

①教育目標や重点目標等の設定に関する充実策【学校マネジメント:観点1】

- i) 学校教育指導方針(市の重点目標及び課題)に基づき、各学校では、目標設定、具体的な取組指標の設定、効果的な検証改善(短期のPDCAサイクル)、目標の連動(市の方針を受けての学校目標と個人目標)等を行う。
- ii) 学校の重点目標を学校の課題と一致させ、学校評価の重点目標を「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ「学校評価の4点セット」により焦点化を図り、明確に示す。
- iii) 児童生徒の成長をイメージできる取組指標を設定し、取組指標は「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うかを明確にする。

②検証・改善サイクルに関する充実策【学校マネジメント:観点2】

- i) 学校評価の4点セット及び各種プランについて、市教委へ年3回の提出及び訪問指導を年2回以上実施し、確認指導を行う。
- ii) 大分教育事務所と連携し学校訪問等でも指導する。
- iii) 校長の目標管理面談等を年2回以上実施し、検証・改善の取組を確認し指導する。
- iv) 教務主任会議を実施し、検証改善の徹底を図る。
- v) 課題のある学校は、学校評価4点セットを活用し、市教委(必要に応じて大分教育事務所)に月1回を目安に検証・改善結果を提出する。
- vi) 市と学校のベクトルを合わせた上で、具体的な取組指標と達成指標の数値化により、検証サイクルを確立し、短期及び年度を跨いだ検証・改善を行う。

③カリキュラム・マネジメント推進のための支援策【学校マネジメント:観点3】

- i) カリキュラム・マネジメントの好事例を共有し、教務主任研修及び研究主任会等により、ミドルリーダーの能力を高める。
- ii) 教育課程の評価改善について、教務主任研修及び研究主任会を実施し、教育課程の改善サイクルを各校に定着させる。
- iii) 課題のある学校には、市教委による学校訪問等を実施し、指導支援を徹底する。

④主任等を効果的に機能させるための支援策【学校マネジメント:観点3】

- i) 学校は、チーム学校として目標達成に向けて取り組むため、学校運営委員会により、計画的・定期的に連絡調整を行う。その際、主任が中心となり少数職種の参画等連携を図る。
- ii) 管理職や50代の大量退職の時期への対応として、管理職、ミドルリーダー、次期ミドルリーダー、若年層等のステージに応じた人材育成研修を実施する。
- iii) 学校規模に応じたマネジメント研修を実施する。
- iv) 教務主任会議及び研究主任会議を実施し、組織力や授業改善等の質の向上を図る。

⑤学校・家庭・地域による目標の協働達成【学校マネジメント:観点4】

- i) 子どもたちに必要な資質・能力を育成する学習指導要領の理念を踏まえ、学校教育目標及び課題を学校・家庭・地域で共有する。
- ii) 学校評価の4点セットの重点的取組と取組指標に、学校・家庭・地域それぞれの取組を記載し、保護者や地域住民等の理解と参画を得る。
- iii) 臼杵市小中一体教育担当者会議で、中学校ブロック内のめざす像や方向性を統一し、小中の接続を滑らかにし、“15の春”に向けた取組に一貫性を持たせる。

(2)「チーム学校」推進の取組

- ①「芯の通った学校組織」の推進に向け、大分県教育庁教育改革・企画課及び大分教育事務所の協力のもとに、大分県版「チーム学校」の実現及び臼杵市学校教育指導方針に基づく「チーム学校」の実現に向けた取組を徹底する。
- ②学校課題の分析力及び組織マネジメント力の向上をめざした管理職研修等を実施する。
- ③管理職、ミドルリーダー、次期ミドルリーダー、若年層等の人材育成のための校内OJTの推進及び全員研修を実施する。
- ④授業力向上アドバイザー等を活用した人材育成・授業改善に取り組む。



(3) 学校における働き方改革の推進の取組（学校マネジメントの視点から）

- ① 臼杵市出退勤システムで超過勤務時間を客観的に把握させるとともに学校ごとに定時退庁日を設定するなど、学校評価の4点セットに勤務実態改善に関する具体的な数値目標を設定し、具体性のある改善に取り組む。
- ② チームうすき(SC、SSW等)の活用による組織的な運営を推進する。
- ③ 英語専科教員の活用、教科担任制度の取組を推進する。
- ④ 部活動ガイドライン及び中学校部活動指導方針を徹底する。
- ⑤ 夏季休業中の学校閉庁を確実に実施する。
- ⑥ 事務職員等少数職種の参画や連携により学校運営を行う。

(4) 校種間連携推進の取組

① 幼小接続連携の取組

- i) 幼児教育等施設派遣研修を終えた教職員をコーディネーターに位置づけ、幼小接続連携の推進役として活用する。
- ii) 子どもをつなぐ・先生をつなぐ取組の推進
幼児教育基本方針「臼杵っこ育ての羅針盤」による幼小接続連携強化及び交流・学習会を実施する。

- iii) 臼杵市幼児教育アドバイザー、幼小接続連携コーディネーターの活用による幼児教育の充実について、協育コーディネーターと連携し家庭教育も含め実施する。

②小中一体教育の徹底

- i) 小中連携のための情報交換会、実践交流会、体験授業等を実施し、学習規律・生活のきまりの徹底を行うなど、臼杵市小中一体教育の発展・深化を図る。
- ii) 子どもをつなぎ、小中の連携を強化するための取組を推進する。(小中乗り入れ授業、中学校への体験入学、中学校ブロックごとの小小連携・合同行事、小学生への読み聞かせ等)

(5)「地域とともにある学校」推進の取組

①コミュニティ・スクールの推進

- i) 協育コーディネーターを活用し各地区にある地域振興協議会と連携して、地域とともにある学校の実現に向けて郷土愛を育む取組を推奨し、地域への広報等を積極的に行う。

②協育ネットワークの活用

- i) 学校課題の解決や臼杵市小中一体教育の推進に向け、うすきふれあい学校等において学校・家庭・地域の協働事業を実施する。
- ii) 社会教育課と連携して協育ネットワークづくりを推進し、地域人材を活用した放課後子ども教室、中3生教室等の事業の充実を図る。

2. 学力向上

(1)新大分スタンダードに基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上

①新大分スタンダードにもとづく「主体的・対話的で深い学び」の実現

- i) 学習指導要領全面実施に対応した臼杵市Thank youチェックシートを活用し、組織的な授業改善と授業の質の向上をめざす。
- ii) 臼杵市Thank youチェックシートの重点項目(「ねらい」の明確な設定、「めあて」と「ふりかえり」の位置づけ)を指導主事、授業力向上アドバイザーの巡回訪問で徹底を図る。
- iii) 「つきたい力」を明確にした単元の指導構想による授業改善

②若手教員のスキルアップ(人材育成)

- i) 授業実践学習会を開催し、授業力向上アドバイザー等を活用し、若手教員等の授業力・学級経営力の向上をめざす。
- ii) 3つの提言推進拠点校の教科部会や校内研究会を活用し、学校を超えた交流と人材育成の仕組みを構築する。(臼杵市SD研修)

③校長会の学力向上プロジェクトと市教委の連携による組織的な授業改善。

- i) 組織的な学校運営・経営力の向上を目的とした管理職・ミドルリーダーの研修による人材育成
- ii) 学力向上プロジェクトと連携した、指導力向上・若手教職員の人材育成
- iii) 小学校:長期休業中の市内統一問題の日常的・継続的な活用
⇒学校間格差の解消、基礎基本の定着の一助
- iv) 中学校:うすきチャレンジ(15の春に向けての15分)の組織的・継続的な実施
⇒学校間格差の解消、基礎基本の定着の一助

④授業改善の取組を活かしたカリキュラム・マネジメントの推進

- i) 小学校:若年層の教員を対象とした授業力向上アドバイザーの訪問指導を全市で実施し、改善を推進
- ii) 中学校:ミドルリーダーが達成指標を具体的に設定し、検証改善のサイクルを確立

- iii) 幼小接続連携によるアプローチ・スタートカリキュラムの徹底及び「架け橋プログラム」を意識した合同研修、幼児教育アドバイザー及び臼杵市幼小接続連携コーディネーターの活用による幼小の滑らかな接続を強化

⑤特別支援教育の視点からの授業改善の推進

- i) 通常の学級における「個別の指導計画」(様式:市内統一)の作成・活用推進
⇒全指導計画の管理(市教委への提出:調査・相談員の派遣)
- ii) 「個別の指導計画」の作成・活用推進に向けた研修会の実施(個別相談も含む)
- iii) 授業のUD化の推進(好事例のアナウンス)
- iv) 臼杵市教育委員会の特別支援教育調査・相談員の効果的な活用
- v) 訪問型通級指導教室指導員の派遣

(2)「中学校学力向上対策3つの提言」の更なる強化・発展

- ①指導教諭と3つの提言推進教員(及び中学校英語教育推進教員)を中心とした、校内研究体制の充実と、臼杵プロジェクト会議との連携による市内5校への取組の発信と交流
- ②推進校(西中)の校内研究と教科部会との連携(教科の枠を超えた授業研究)
- ③学校規模に応じたタテ持ちを行い、教員による授業の差を生まない体制の整備
- ④西中の人材育成に向けた取組の充実と、中学校授業力向上アドバイザーと連携し、他校教員が西中の教科部会や授業研究へ参加できるしくみを構築(臼杵市SD研修)
- ⑤生徒が「わかった」「できた」を実感する授業改善に向けた生徒による授業評価を市内中学校で実施
- ⑥生徒と共に創る授業の実現に向けた学習委員会を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「学びに向けた集団づくり」を推進

(3)小学校教科担任制の推進

- ①臼杵市の教科担任制導入のねらい
 - i) 幼小中一体教育の深化
 - ii) 「思考力・判断力・表現力等」の伸長
 - iii) 教科の専門性に基づいた指導方法の工夫改善による質の高い授業
 - iv) 働き方改革の1つとしての取組
- ②導入により期待される効果
 - i) 系統的・専門的な指導による児童の学力向上
⇒「思考力・判断力・表現力等」の伸長、中学校との円滑な接続
 - ii) 指導支援体制の強化 ⇒児童の様子・実態の把握、学習の進捗や規律を統一
 - iii) 働き方改革への対応 ⇒教科指導の専門性向上による授業力向上、授業準備の負担軽減と教材研究の時間確保への一助

(4)小学校・中学校の英語教育の推進

<英語教育推進校・臼杵市EnglishProjectチームを核とした外国語教育における小中一体教育>

- ①小学校からの学びをつなぐ体制と取組の充実(小小・小中の連携)
 - i) 臼杵市EnglishProjectチームでの課題の共有と具体的な取組の提案
 - ・市教研小学校外国語部会と中学校英語部会において具体的な取組を提案(取組のベクトル合わせ)
 - ・小学校推進校担当をリーダーとした小学校英語専科教員の定期的な情報交換と教材共

有と研修の充実

・市教研小学校外国語部会と中学校英語部会の交流、合同研修の充実

ii) 指導の質の向上に向けた研修及び連携体制の構築

・小・中学校推進校の公開授業での授業モデルの発信と事後研究会の実施

・公開授業へは校種を問わず参加し、小中の接続に向けた情報交換や議論の場とする

・公開授業等における「1人1台端末の効果的な活用」に向けた取組の提供、情報共有

②指導教諭及び中学校英語指導力向上支援教員を中心とした授業力向上に向けた取組の充実

i) 小中の教科書を繋ぐ取組の充実とカリキュラムマネジメントの視点での教育課程の編成・実施

・単元ごとのゴールを具体的に示した実用的な単元計画の作成

ii) 公開授業及び市内全中学校への情報発信、訪問指導（授業力向上ADとの連携）

・推進校の公開授業での授業モデルの発信と臼杵市の課題に即した事後研修の実施

・他校の英語教員の教科部会への受け入れ支援及び指導教諭による訪問指導の実施

(5) ICT活用指導力向上に向けた取組

< 「1人1台端末」を効果的に活用した組織的な授業改善と人材育成 >

①教育委員会ICT担当者、中学校授業力向上アドバイザー、ICT支援員の連携によるICT教育支援体制の整備

・「1人1台端末」の効果的な活用に向けた状況把握や好事例について情報共有する臼杵市ICTプロジェクト会議の開催

②中学校授業力向上アドバイザーとICT支援員（4名配置予定）による指導及び授業支援

・1人1台端末の効果的な活用を通して、経験年数の浅い教員の授業力向上に向けた指導支援

・ICT機器の活用に不安のある教員の1人1台端末活用に向けた授業サポート（管理職との連携）

③臼杵市全校（18校）への「1人1台端末」の効果的な活用に向けた啓発及び研修の実施

・各校での身近な取組や好事例等を「臼杵市ほんまもんICT通信」を通して紹介し啓発する。

・中学校授業力向上アドバイザーが訪問指導において、各校のICT活用状況を確認し、状況に合わせた研修を各校ICT担当と連携して実施（ICT活用に向けた授業公開をコーディネート 年間2回実施）

(6) 学力向上に向けた臼杵市独自の事業

①全額公費負担による臼杵市基礎基本テストの実施

（1月中旬に実施。小3～6年：国、算、理 中1、2年：国、社、数、理、英）

②ICT授業支援員（授業改善にむけた支援、全18校実施）

③学校図書館専門員の専任配置（全18校）による市立図書館と連携した読書のまちづくり

④中学校アシスタントティーチャーの活用

⑤訪問型通級教室の実施

⑥特別支援教育支援員の基準以上の配置

⑦中学校入学後「臼杵っこ中1統一テスト」の実施。結果を各ブロック、出身小学校ごとに整理分類し各小学校と情報共有する。小学校ごとの学び残し0（ゼロ）に向けた取組の検証・改善と、躓きに対する中学校での早期フォローの実施

⑧中学校3年生に英検3級受検料全額補助（大学入試新制度に備えて）

⑨中3生公民館教室・放課後教室、小学生放課後子ども教室の実施（社会教育課との連携による地域人材の活用）

⑩幼児教育充実及び計画推進のための幼児教育アドバイザー及び幼児教育推進コーディネーターの設置・活用

- ⑪少人数指導教員及び複式解消のための教員の配置
- ⑫スクールバスを活用した小規模校合同授業の実施

3. 体力向上・健康増進

(1) 一校一実践の推進

①体力向上の推進

- i) 臼杵市体力向上会議(体育主任中心)を年4回開催
体力向上会議において、調査結果の改善策(適切な実施のためのポイント、体育専科教員による体力アップ通信など)を協議し、主体的な体力向上策を実践
- ii) 体力向上推進校(中学校)の公開授業
- iii) 臼杵市統一の体力アップ通信(体育専科教員作成)
- iv) うすきふれあい学校での「親子で体力テスト」実施
- v) 幼小接続連携強化の中での幼保における「遊び」(身体を動かすことの楽しさを味わう)の実践※「臼杵っこ育ての羅針盤」の実践

②授業実践・取組の交流

- i) 臼杵市学校教育指導方針に基づき各校の体力向上プラン作成とPDCAサイクルによる、検証・改善を徹底
- ii) 前年度の各学校の体力分析結果を次年度の体育主任へ確実な引き継ぎと年度を跨ぐ課題解決のPDCAサイクルの実践
- iii) 体力向上や運動の必要性を家庭へ発信
- iv) 体力向上会議等で公開授業(健康増進・体づくり)を通して、授業モデルを発信
- v) 体育専科教員による拠点校及び訪問指導による「わかる・できる・楽しい」授業の実施
- vi) 幼保年長交流会で体育専科教員による「遊び」の実践及び小学校教諭の参加

③中学校部活動で運動習慣の確立及び健康づくりの増進



(2) 健康増進の取組

①「臼杵市小児生活習慣病予防対策プロジェクト」の取組強化

«臼杵市医師会等の専門家とともにチームを組織し、子どもの頃からの健康づくりを実践»

- i) 学校健診データの管理・分析・健康課題の明確化と情報発信・事業展開
- ii) 学校健診二次健診を実施し、児童生徒とともに保護者に対し、栄養・運動・睡眠の保健指導を実施

②がん教育・命の授業など子どもの健康づくりのための取組を実施

(3) 食育の推進

- ①臼杵市全体をあげて取り組む「臼杵市小児生活習慣病予防対策プロジェクト」による健康指導を実施
 - i) 栄養教諭や管理栄養士が給食時や授業で訪問指導
 - ii) 保険健康課や子ども子育て課の保健師と連携した授業や講演会での指導
 - iii) 保護者への生活習慣病予防・対策の啓発・指導
- ②学習指導要領や臼杵市食育全体計画に基づき、学級担任・栄養教諭・体育専科教員等が連携した食育授業の実施
- ③保護者と連携した食育の推進食育講演会・長期休業前の指導
- ④保健だよりや広報誌による食育啓発
- ⑤地域・家庭と連携したうすきふれあい学校での食育授業・講演会の実施
- ⑥地域(地元企業)と連携した食育の推進
- ⑦食育推進協議会(中部保健所、学校給食センター、保険健康課など)との連携。
- ⑧学校給食にほんまもん農作物を活用

(4) 歯と口の健康の増進

- ①ブラッシング習慣化への取組
- ②全小中学校でのフッ化物洗口の実施及び実施率向上の取組

(5) 臼杵市地域人材や地域行事の活用(社会教育課等との連携による3つのきょう育の実践)

- ①臼杵市さくらマラソン・ウォーキング大会への出場啓発
- ②水泳の授業に山内流の講師派遣(小学校)・山内流游泳所への入所のすすめ
- ③臼杵っこ持久走教室(小学校)県内一周駅伝選手をゲストティーチャーにした授業を実施

(6) 命を守る防災教育

- ①各学校1名以上の防災コーディネーターの設置と確実な校務分掌への位置づけ
- ②「臼杵市地域防災計画」(津波等避難訓練)に基づき、災害に対する基本的な知識を身に付け、習得した知識に基づいて的確に判断し、迅速な行動をとることができる幼児及び児童生徒を育成する防災教育の計画的な実施
- ③安全に行動することの大切さを理解し、安全のためのきまりや約束を守り、危険に気付き自ら安全な行動をとる幼児及び児童生徒の育成
- ④災害安全に関して基本的な知識を身につけるとともに、自分の避難場所が分かり、避難行動ができる能力の育成
- ⑤市防災危機管理室との連携によるジュニア防災リーダーの育成及び活用
- ⑥地域とともに、日常的・継続的な避難訓練の実施

4. 臼杵っこ輝きプロジェクト

(1) 幼児教育と小学校教育とのつながりの推進

- ① 幼児教育について理解を深め、「就学前までに育てほしい子どもの姿」の共有化を図るため、“臼杵っこ”育ての羅針盤の周知徹底を図る。
- ② 保育士と教諭による交流や研修において、臼杵版「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」「架け橋プログラム」について協議するなど、幼児教育と小学校教育の「つながり」の充実を図る。
- ③ 子どもの情報を伝え合い幼児教育の成果を小学校教育の実践につなげる
- ④ 幼小の連携で子どもの実態に即した教育の実践の工夫
- ⑤ 幼小接続連携協議会や幼児教育推進委員会等で、子どもの接続のあり方や保護者の思い・願いについて学び合い、深め合い、つながりあう。



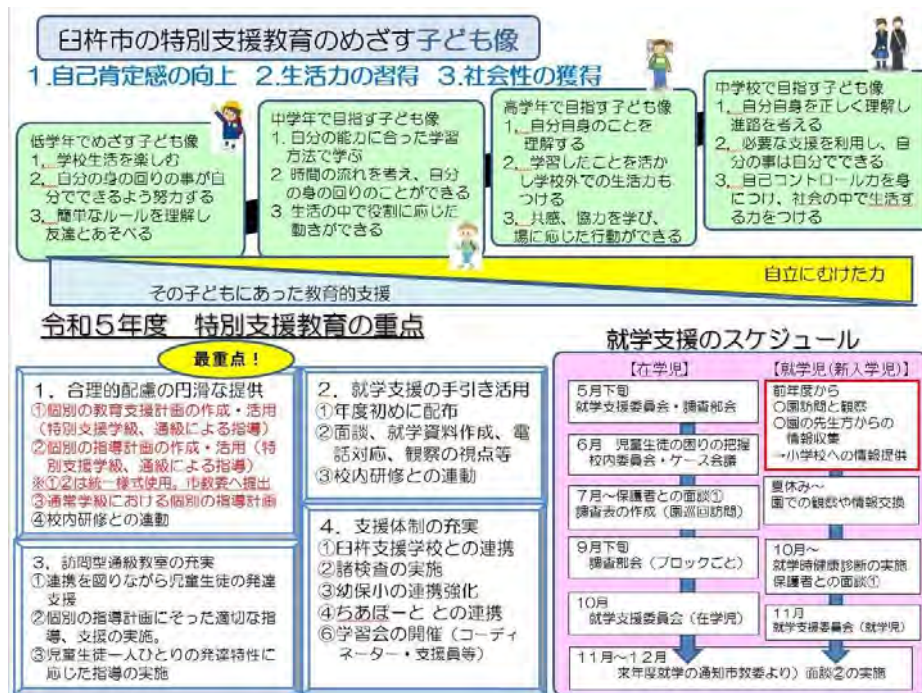
(2) 特別支援教育の取組

- ① 合理的配慮の適切かつ確実な提供及び学習指導要領への対応
- ② 就学支援の手引きの利活用
- ③ 訪問型通級教室の充実（設置校の担当者と市教委通級指導員、小中学校で実施）
- ④ 支援体制の充実に向けて（専門スタッフの配置・ちあばーととの連携・支援の必要な子どもごとのカルテ作成及び継続的な支援状況管理・学校における支援の充実）
- ⑤ 特別な教育的支援を必要とする全児童生徒（特別支援学級在籍、通級による指導）の「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成・活用（学校、市教委で管理・運用）
- ⑥ 通常の学級に在籍し、特別な教育的支援を必要とする全児童生徒の「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成・活用（学校、市教委で管理・運用）※R5年度から新様式
- ⑦ 適正な就学支援にむけた詳細な就学調査の実施
 - i) 5歳児すこやか相談会での子ども子育て課との連携による就学児の滑らかで適正な就学支援の実施
 - ii) 臼杵市就学支援シートの作成（全児童生徒：毎年作成）
 - iii) 臼杵市就学支援委員会（年3回開催）の開催
 - ・調査部会作成の就学支援シートをもとに、児童生徒の適正な就学支援についての判定結果を臼杵市教育委員会へ答申

iv) 調査部会（年5回開催）の開催

- ・個別の調査、検査、診断、保護者面談等による就学支援シートを作成
- ・作成した就学支援シートをもとに、就学支援委員会を開催

v) 特別支援教育調査相談員の活用



(3) いじめ対策・不登校支援の取組

◎各学校の教育相談コーディネーターの配置と確実な校務分掌への位置づけ

①計画・組織

『不登校ゼロの学校づくり』の推進

- ・「臼杵市いじめ防止基本方針（児童虐待を含む）」に基づき各校で基本方針を定め、各学校の「いじめ対策・不登校支援対策プラン」の作成・検証・改善を実施。
- ・教育相談コーディネーター、地域児童生徒支援コーディネーター、SC、SSW・ちあばーと等によるチームカンファレンスの開催
- ・ヤングケアラーの実態把握と関係諸機関と連携した相談・支援・解消に向けた取組

【具体的な計画・組織づくり】

- ・地域の小・中学校の定期的な訪問やチームカンファレンスによる指導・助言
- ・各学校の「いじめ・不登校対策プラン」作成・検証・改善・徹底の推進
- ・市及び各学校のいじめ・不登校対策委員会の活性化
- ・生徒指導主任と教育相談コーディネーターの校内組織における役割分担

②未然防止（あったか♥ハート）

すべての児童生徒にとって魅力ある学校・学級づくり

- ・「あったか♥ハート0」の徹底
- ・「絆」と「居場所」を意識した共感的な人間関係づくりのサポート
- ・人間関係づくりプログラム、QU調査結果（小5と中1：年に2回、要望学校・学年）、各種学力調査質問紙結果の活用研修を実施し、学級づくりへ活かす。
- ・週1回の短時間で継続的に行う人間関係づくりプログラムの実施
- ・わかる授業の推進、教育相談体制の充実
- ・キャリア・ノート等を活用した小・中学校の連携推進

- ・「ほっとりぼん」効果的活用の推進、「中学校のはてな解決」乗り入れ授業実施
- ・スクールロイヤーの活用

③早期発見・初期対応（ほっと♥ハート）

子どものかすかな変化を見逃さないために

- ・「あったかハート0・1・2・3」の徹底による欠席児童生徒への初期対応システムの構築
- ・「いじめ見逃しゼロ」に向けた取組の徹底
- ・児童虐待への早期発見と対応システム構築の推進
- ・「気づき」「考え」「行動する」組織づくり


④解決支援（にっこり♥ハート）

- ・不登校対応マニュアルの徹底「チームうすき」の組織的対応
- ・地域児童生徒支援コーディネーターの活用
- ・要保護児童対策地域協議会（子ども子育て課、福祉課、中央児童相談所、警察、家庭児童相談員、中部保健所 等）での情報共有、連携強化
- ・SC、SSW、SL を活用した、子どもの貧困対応等支援体制の充実
- ・スクールロイヤーに相談し、法的な指導助言を受ける。
- ・月1回の教育支援センター「きずな」連携会議の活性化
- ・「きずな」への学校給食配送
- ・市立図書館との連携による児童生徒の自立をめざした図書館活動（年3回）

「ほっとりぼん」は、不登校やいじめ、問題行動等について、児童・生徒への対応や支援を、年度を跨いで滑らかに次年度に引き継ぎ、未然防止に一助とするもの。

「あったかハート0・1・2・3」

- あったかハート0=子どもの変化を見逃さない（未然防止・早期発見の充実）
- 欠席1日目=電話連絡（励まし電話、安心電話、受診確認）
- 欠席2日目=電話か家庭訪問（安心電話、症状の具体把握）
- 欠席3日目=家庭訪問（組織対応、体調確認、再登校不安解消）
- 欠席3日以上=チーム支援開始
（担任、養護教諭、関係職員、SC、関係機関連携）



5. 白杵らしさを活かしたまなびプロジェクト

（1）うすき読書のまちづくり推進事業～読書を通して子どもを育てる～

- ①「第3次白杵市子ども読書活動推進計画」（令和3年度～令和7年度）をもとに、計画的・継続的に読書活動を推進する。
- ②「読書のまちづくりステーション」や協育コーディネーターの支援・協力を得ながら、司書教諭（学校図書館担当教諭）・担任・学校図書館専門員が連携して、学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能の充実、白杵市立図書館等の利用促進を図り、読書の楽しさや意義を実感させ、本好きの児童生徒を育てる。
- ③「郷土のきょう育（郷育）」の推進として、副読本『白杵の歴史発見 ルート18』や野上弥生子作品・日記等を活用して、白杵大好き“白杵っこ”の育成に取り組む。
- ④「協力のきょう育（協育）」の推進として、学校一斉朝読書やPTAと連携した親子読書・読み聞かせ活動・小中間の読み聞かせ交流などをすすめる。
- ⑤「響き合いのきょう育（響育）」の推進として“白杵っこ”文庫、『心の響き～白杵の先人に学ぼう～』『野上弥生子からの5つのお話心のやすらぎ』『深田心の小径』等の活用に努める。
- ⑥社会教育課で育成する「子ども司書」と学校図書館専門員や図書委員の連携による学校における読書活動を推進する。
- ⑦社会教育課と連携して、幼稚園・保育園（所）・認定こども園・小学校・中学校へ“白杵っこ”文庫の計画的な増冊を実施。本と親しみ、本が大好きな子ども・本を読む習慣のある子どもの育成に取り組み、「子ども司書」の育成・活用に努める。
- ⑧「うすき市民読書感想文・感想画・エッセイコンクール」など各種コンクールへの積極的参加。

臼杵市教育研究会国語部会作成文集『ひとつぶの真珠』『亀城』の活用で、「読む」「書く」力を育む。

(2) 農泊体験学習～つながりの実感、命への感謝～

- ① 平成21年度より開始し、平成25年度以降、全ての小学5年生が体験
- ② ふるさとの自然のよさ、家庭の温もりを体感する場
- ③ コミュニケーション力の向上・自然の中で自ら考え、学ぶ力の育成

(3) 「“臼杵っこ”検定」及び「“臼杵っこ”ガイド」～臼杵の歴史と文化から学び、発信～

- ① ルート18の活用
- ② 検定試験を毎年夏季休業中に各学校で実施
(小5～中2対象:保護者、地域の方の参加希望者も可能)
- ② ガイド活動 年4回。本年度15期生デビュー (合計 3名育成)
- ③ 臼杵っこ学芸員 5期生デビュー (合計 3名育成)

(4) 里帰り授業～先輩の生き方から学ぶ～

臼杵市出身の先輩の夢や願い、生き方を直接見聞させ、将来の夢や目標について思いを広げさせる(キャリア教育)

(5) 臼杵の人材を活用した教室の実施 ～臼杵の財産を体感～

- ① 臼杵っこ持久走教室
- ② 山内流実技教室
- ③ 吉四六話教室
- ④ 臼杵っこ土曜教室(うすき塾、英語でまなぼう、野津っ子チャレンジクラブ)(中3生教室)
- ⑤ 放課後子ども教室・中学校放課後教室

臼杵らしさをいかした、臼杵市にしかできない子ども育てプロジェクト

うすき読書のまちづくり推進事業

～読書を通して子どもを育てる～

- 学校図書館専門員1校専任配置
- 夏休みの図書館解放
- 図書標準の達成・蔵書の充実
- ・ 調べ学習を中心に蔵書の充実
- NIE教育
- 臼杵市立図書館主催「子ども司書」育成事業の活用



農泊体験学習

～つながりの実感、命への感謝～

- 平成21年度よりスタート
- 全ての小学5年生が体験(平成25年度より)
- ふるさとの自然の良さを体感する場
- コミュニケーション能力を育成する場



うすき放課後子ども教室・中学校放課後教室

～基礎・基本の定着～

- 週1回の小学校13校で実施
- ・ 国語と算数の学習
- ・ 基礎基本の学習内容の定着
- 週1回希望する中学校で実施



“臼杵っこ”検定 “臼杵っこ”ガイド

～臼杵の歴史と文化から学び、発信する～

- ルート18の活用
- 検定試験8月(小5～中2対象)
- ガイド活動年4回、本年度16期生デビュー
- 臼杵っこ学芸員6期生
- 英語deガイド



臼杵の人材を活用した教室

～臼杵の財産を体感～

- 臼杵っこ持久走教室
- 山内流実技教室
- 吉四六話教室
- 臼杵っこ土曜教室
- ・ うすき塾 ・ 英語でまなぼう
- ・ 野津っ子チャレンジクラブ
- ・ 中3生教室



里帰り授業 ～先輩の生き方から学ぶ～

- 臼杵市出身の先輩の仕事や仕事に対する夢や願い等を聞き、将来の仕事や夢について思いを広げる。(キャリア教育)
- 東京臼杵人会との連携
- 郷土に誇りと自信をもつ

